

札幌日本大学高等学校

北海道の産業課題を世界視点で捉え、解決に導く グローバル人材育成

【構想の概要】

国際化を推進する大学・官公庁・民間企業と連携し、国際教養を身につけながら、産業、環境、社会における『未来の北海道の姿』をテーマとして、「課題の設定」・「調査（フィールドワーク）」・「仮説・分析」・「まとめ・表現・発信」の研究を行ない、国際舞台で主体的に活躍する全人的グローバル・リーダーを育成する。研究するカリキュラムは、探究基礎「情報の収集力、分析力、考察力、想像力」・探究応用「問題解決力・多様性、実践力」・探究発展「情報発信力、交渉力、英語コミュニケーション力」・探究評価「パフォーマンス評価」の4つの研究とした。

研究開発の構想・研究開発構想の仮説・研究内容

- 仮説1**：自国や多国の違いを感じる感受性、異文化・価値観への理解力、多様なやり方にあわせる柔軟性の育成を通じて、「異なる歴史的・文化的背景や価値観の理解と共生ができる」生徒が増える。
- 仮説2**：物事を組み立てて前に進ませる力の育成により、「異質な環境での対応力、ゼロベースでの構築力、問題解決型思考力」をもつ生徒が増える。
- 仮説3**：積極的・論理的な説得力、コミュニケーションの粘り強さを通じて、人を動かす力をもった生徒が増える。

■ 探究基礎「情報の収集力、分析力、考察力、想像力」の育成研究

ジェネリックスキル（世の中の情報を的確かつ多角的に捉える視点）を基本に、異文化に対する理解力と寛容性を養う研究を行なった。外部から先生を招き、異文化社会を学ばせた。また、国内・海外研修を通じて感受性、想像力を養った。

■ 探究応用「問題解決力、多様性、実践力」の育成研究

「食」を通じて、北海道の身近なトピックスから、世界規模の問題を捉え、そして自らの関わり方を問い直すなど、観光・領土・戦後70年を切り口とし、北海道が抱える課題を世界視点で考え、解決策を策定することを課した。

■ 探究発展「情報発信力、交渉力、英語コミュニケーション力」の育成研究

個人論文の策定を実施。語学カレベルに応じて、英語論文、日本語論文とした。論文は、ロジカルライティング（自分の意見や主張を、相手にわかりやすく伝えるための文章作成法）を意識して策定指導した。

【教育課程表】

教科	科目	単位数	高1	高2(文)	高2(理)	高3(文)	高3(理)
国語	国語総合	4	◎	◎			
	現代文B	4	◎	◎	◎	◎	◎
	古典B	4	◎	◎	◎	◎	◎
	国語演習					◎	◎
地理	世界史B	4		◎			
	世界史A	2	◎	◎			
	世界史演習					◎	
	日本史B	4		◎	◎		
	日本史A	2	◎	◎			
	日本史演習					◎	
地理B	地理B	4		◎			
	地理演習	2	◎				
公民	倫理	1					◎
	法律	2					◎
	現代社会	2		◎	◎	◎	◎
	公民演習					◎	
数学	数学I	3	◎	◎			
	数学II	4		◎	◎	◎	
	数学III	5					◎
	数学A	2	◎	◎			
	数学B	2		◎	◎	◎	
数学演習						◎	
理科	物理基礎	2	◎	◎			
	物理	4			◎	◎	
	物理演習						◎
	化学基礎	2			◎	◎	◎
	化学	4					◎
	化学演習						◎
	生物基礎	2	◎	◎			
生物	4			◎	◎		
生物演習						◎	

科学と人間生活	理科特講A	2	◎	◎			
	理科特講B					◎	◎
	理科演習A					◎	◎
	理科演習B						◎
							◎
保体	体育	7~8	◎	◎	◎	◎	◎
	保健	2	◎	◎	◎	◎	◎
芸術	音楽I	2	◎	◎	◎	◎	
	美術I	2	◎	◎	◎	◎	
英語	コミュ英語I	3	◎	◎			
	コミュ英語II	4		◎	◎	◎	◎
	英語表現I	2	◎	◎			
	英語表現II	4			◎	◎	◎
	英語演習					◎	◎
家庭	家庭基礎	2	◎	◎	◎	◎	
情報	社会と情報	2	◎	◎	◎	◎	
SGH	探究基礎	1	◎	◎			
課題探究型学習	探究応用	1		◎	◎	◎	
	探究発展	1				◎	
SSH	SS基礎	1	◎	◎			
	SS発展	1		◎	◎	◎	
	SS応用	1				◎	
総合学習	総合的な学習の時間	3~6	◎	◎	◎	◎	
特活	LHR		◎	◎	◎	◎	
			35	35	35	35	35

・探究基礎・応用・発展はSGHの研究開発に係る学校設定教科・科目

◎は必須 ○は選択

学校設定科目

本校はSSHの指定高校でもあり、高校1年次において「SSH探求科学」・「SGH課題探求型学習」のいずれかを選択履修することとしている。時間数は2単位とし連続授業としている。SGH課題探求型学習は、「探求基礎（高校1年）」「探求応用（高校2年）」「探求発展（高校3年）」としている。

探求研究として取り扱うテーマは、社会、経済、文化などグローバル化が急速に進展し、国際的な流動性が高まっている現在、科学技術の急速な進歩と社会の高度化、複雑化や急速な変化に伴い、過去に蓄積された知識や技術のみでは対処できない新たな諸課題が生じており、それらに対応していくため、新たな知識や専門的能力を持った人材が求められていることから、21世紀の社会状況を展望し、国際社会でリーダーとなるべく人材育成のプログラムを開発としている。グループワークを多く取り入れた研究の進め方とした。

【グループワークの進め方は次のように定めた】

	目安時間	教員の役割
・ディベートの班ごとにグループ ・各班で、司会・記録・リーダーを決定	5分	リーダー力の観察
・個人のワークシート策定 ・個人のワークシート発表 ・質疑 ・グループワークシート策定	50分	個々の相違点に注意を払う
・グループでポスター策定	30分	
・振り返り	10分	

成果と課題の分析検証

(1) 生徒の変容調査

SGH事業の成果を分析するため、入学直後と3年後の質問調査を実施した。特筆すべき点として、

- ①受身ではなく主体的に学習することについて
指定前肯定率：45.5%→指定後：55.0%
- ②課題解決に向けた有益な考え方について
指定前肯定率：32.1%→指定後：42.5%
- ③社会課題に興味・関心が沸いたか
指定前肯定率：67.1%→指定後：83.4%
など、生徒の意識が向上することとなった。

(2) 身近な地域に関する調査

- ①身近な地域の課題を積極的に考えるようになった
指定前肯定率：52.4%→指定後：76.5%
他調査も受講後の意識は高まった結果となった。

(3) 海外への意識と行動の変化

最も大きな変化をもたらしたものは海外への意識・行動であった。

指定前留学（海外研修含）率：10.1%→指定後：30.8%となり、大幅な伸び率であった。また、その多くが国際会議、インターンシップなどへの参加となり、自主的な活動を求める結果となった。

(4) 教員の意識変容調査

教員、学校の取り組みについて、SGH事業の開始前、開始後について調査した。結果は指定後の変化が大きく、成果として認識することができる結果であった。

- ①学校の取り組みが向上した
指定前肯定率：32.5%→指定後：78.0%
- ②グローバル人材育成につながった
指定前肯定率：46.8%→指定後：63.7%

教科との連携・探求活動

SGH課題探求型学習の主たるチームは、地歴・公民、英語、国語の各科が中心となって研究を行なった。探求型学習については、各教科が連携して研究開発を行なうこととしており、年2回近隣の中学・高校・大学と合同の研究会を実施した。事例として中学生対象（本校の中学部）で、「社会科・理科・国語科・英語科」が連動した「社会研究授業」の研究を実施し、現在は定着した科目として継続している。それらの研究結果をベースとして、2019年度からiPadを取り入れた、探求型授業の研究を開始した。

地域との連携

北海道の産業、経済など地域に密着したテーマを使った課題研究を行なった結果、道庁・ニセコ町などの行政機関と連携した街づくりの国際会議開催や地域活性への参加を行なえるようになった。北方領土問題では「ビザなし交流」に教員・生徒が参加し、元島民へのインタビューなどを通じて問題意識を学んだ。外交関係の難しさや領土問題の解決の難しさを学んだ。